kosei
生かされ、生きるチカラ。

がん闘病が気づかせてくれた家族の絆。

大田教会　長澤祥江さん

長澤祥江さんは25歳で結婚し、二人の娘にも恵まれた。ところが、夫は麻雀好きが高じて家庭を顧みず、女性問題までも起こす。裏切られた悔しさと悲しみで怒りの感情をずっと抱えていた。昨年1月、長澤さんに末期の胃がんが見つかる。手術や治療は肉体的、精神的にもつらく、ささいなことで今までの不満が爆発、夫と口論となった。すると、傍で見ていた長女が「パパにそんなこと言う資格はないよ!」と夫を責めたのだ。「私の苦労をわかってくれた」と思う反面、自分の言動が、娘たちの心に父親への恨みを植え付けていたことを深く後悔した。「過去を引きずるのをやめて、いまの夫と娘たちを見ていこう」――心にそう誓った。長澤家ではいま、週末の夕食後に家族四人で夫の入れたコーヒーを飲むことが習慣となっている。そのひとときは、長澤さんにとって何よりもかけがえのない時間なのだ。

心が変われば、生き方が変わる

私たちは、仏の教えを信じて行じることが大事だとわかっていても、ときおり心がぐらついて、教えの軌道を外れ、自己中心の言動に走ってしまいます。その原因は、教えを「信じて」というところにあるかもしれません。つまり、ただ信じればいいのが信仰ではなくて、諸行無常や諸法無我、縁起の教えといった「真理（真実の道理）・仏法」を学んだら、それに照らしてものごとを見たり考えたりするという、「智慧」に根ざした生活を送ることが、「仏の教えを信じる」ことであり、「信仰」なのです。

ちなみに「信心」というのは、私たち人間が仏と同じものを具えていることを「信じる心」のことです。ですから、仏を信じる、釈尊を信じるというのは、人間そのものを信じ、まわりの人の仏性を素直に信じることを意味します。そのように考えると、教えを信じて行じることの基本は、いま目の前にいる人を信じて尊ぶことに尽きる、といえるのではないでしょうか。

また、たとえば、だれもが仏と同じいのちを生きる仏性のあらわれなのだ、ということが腑に落ちると、人との接し方や言葉の受けとめ方が変わらないでしょうか。心の据え方一つで、いつでも仏と同じ大きな心で楽々と生きられる人生が開けるのです。

立正佼成会
www.kosei-kai.or.jp Eメール：info@kosei-kai.or.jp　〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号　TEL.03-5341-1615